

鼓室形成術後の洗髪方法の検討

1病棟6階 東 ○惣田美由紀、山本恭子、丸田順子、山本恵子

はじめに

当科で鼓室形成術を受ける患者は年間約50例を数える。鼓室形成術の目的は慢性炎症を消退させ、聴力を回復させることであり、一般的注意事項として感染創を手術するために、注意を怠ると術後の治癒経過が期待に反することも少なくない。そのため、術後感染を予防するための看護の一つとして、洗髪許可後も内耳は水に汚染される事を防止する看護ケアが求められる。当科では洗髪時の内耳への防水策として、乾綿球とワセリンを患者の外耳道に詰める方法を施行している。本来なら、洗髪は爽快感を得るものだが、患者より「洗髪してもワセリンが、べとついて気持ち悪い」等の意見が聞かれ、従来の洗髪方法に疑問を感じた。

本研究は鼓室形成術後の洗髪時に用いる耳栓の改善を目的に、改良したパラフィルム被包耳栓を作成し、従来のワセリン法と比較検討したのでここに報告する。

I. 研究方法

1: 調査対象

研究に参加の同意が得られた看護婦13名(正常健康人)

2: 調査期間

平成13年2月～6月

3: 調査方法

第1段階—従来のワセリン耳栓(以下方法Aとする)とパラフィルム(American National Can, 5×5cm)で被包した紙粘土耳栓(以下方法Bとする)を検討。

第2段階—第1段階の結果をもとに、パラフィルムで被包したカラー粘土耳栓(以下方法Cとする)を検討。

第1、2段階とも対象者13名に、各耳栓方法別にアンケートを実施し、各項目を単純集計して比較検討した。

II. 結果

第1、2段階ともにアンケートの回収率は13名(100%)、有効回答率は12名(92.3%)だった。各耳栓方法別の能率・安全・安楽性についての結果を(表1)に示す。

1、能率性

方法Aでは、「準備の簡便さ」について 10 名 (83.3%)、「装着のしやすさ」について 11 名(91.6%)と、多くの方が良いと答えたが、「後始末のしやすさ」については、良いと答えたのは 3 名 (25.0%) だった。方法Bでは、「準備の簡便さ」「装着のしやすさ」についてともに、6 名(50.0%)が良いと答えたが、「後始末のしやすさ」については 12 名 (100%) 全員が良いと答えた。さらに方法Cでは、「準備の簡便さ」「装着のしやすさ」「後始末のしやすさ」の3項目ともに、11 名 (91.6%) ほぼ全員が良いと答えた。

2、安全性

方法Aでは、「安全性」について 10 名 (83.3%) が良いと答えた。方法B、Cではともに、「安全性」について 9 名 (75.0%) が良いと答えた。また、方法A, B, C全てにおいて水が入ったという意見は聞かれなかった。

3、安楽性

方法Aでは、「安楽性」について 7 名 (58.3%) が良いと答えたが、「使用後の耳の状態」「爽快感」については、良いと答えたのはそれぞれ 1 名 (8.3%) だった。方法Bでは、「安楽性」について 6 名(50.0%)、「爽快感」については 5 名(41.6%)が良いと答えたが、「使用後の耳の状態」については 12 名(100%)全員が良いと答えた。さらに、方法Cでは、「使用後の耳の状態」について 10 名 (83.3%)、「安楽性」「爽快感」についてはともに、9 名 (75.0%) とそれぞれ半数以上の人が良いと答えた。

Ⅲ. 考 察

能率性について、方法Aは、従来患者に使用して指導を行っているため、看護婦である対象者は使用法を熟知しており、準備や使用方法での能率性についての評価は高かった。しかし「耳栓をはずした後も耳や髪にワセリンが残って、後始末が大変」「ワセリンを塗った後の手の処理が面倒」といった意見が多数聞かれ、ワセリンのべとつきが耳栓を後始末する際にも影響があることがわかった。方法Bでは、パラフィルムを使用することでべとつきを消失させ、洗髪後も耳栓を外すだけでよいため、後始末の煩雑さが改善できた。また方法Bでは、耳栓として形が自在に変えられる紙粘土を用いたが、使用しにくいという意見が聞かれた。その理由として、紙粘土自体が固まりやすいこと、また、パラフィルムで被包した紙粘土をそのまま外耳道に詰めこむため取り出しにくいということが考えられた。そこで方法Cでは、紙粘土の代わりにカラー粘土を用いることで粘土の固まりやすさの軽減を図った。また、カラー粘土を被包した後パラフィルムの先端をねじり、外耳道から耳栓を取り出しやすくすることで後始末の容易さも向上させた。そのため、準備の簡便性、使用のしやすさ、後始末のしやすさともに、対象者の 90%以上が良いと回答していることから、使用しやすさの改善につながったと考える。

安全性について、方法Aで、ワセリンの油分による防水効果は認めたが、パラフィルム

の方がより耳栓のフィット感を感じていた。その理由として、パラフィルムが体温の影響によって柔らかくなり、耳栓が外耳道と密着しやすくなることが考えられた。そのため、方法Bで紙粘土にパラフィルムを使用し、防水を図ったところ、パラフィルム全体を伸ばすことでフィルムが破損しやすくなり、防水が不十分な場合がみられた。また、紙粘土が固まるため外耳道にフィットしにくく、安全面では疑問が残った。方法Cでは、パラフィルムの周囲四方のみ伸ばしてフィルムの破損を防ぎ、紙粘土をカラー粘土に替えたことで、外耳道へのフィット感の向上は改善できた。それに対し防水効果については、他法と比較して良いと答えた割合は少なかった。その理由として、今回使用したカラー粘土の耳栓は手技の統一を図るため、研究者が耳栓を作製したが、大きさの統一された耳栓は、対象者によっては外耳に十分密着していなかったためと考えられる。

安楽性について、方法Aは「洗髪したのに、ワセリンが髪について気持ち悪かった」「耳にワセリンがついて、拭き取っても翌日までべとついた」といったワセリンの不快感に対する意見が多く聞かれた。方法Bは、パラフィルムで紙粘土を被包することで、べとつき等による不快感は改善できたが、被包しても紙粘土が固まり、「耳の中に入れると痛かった」という意見も聞かれた。方法Cでは、カラー粘土はパラフィルムで被包しても柔らかさが維持できたため、「今までの中で一番気持ち良かった」といった「爽快感に対する意見が多く聞かれた。このことは川島が「安楽であると感じるのは、その状態以前の状態から、段階的にせよ、よい状態にすることである」¹⁾と述べているように方法Cは、他法と比較して安楽性、不快感の改善効果を認めた。

身体の清潔維持は生活習慣において欠かせない行為であり、入院生活の中でも維持できるよう援助しなければならない。鼓室形成術は抜糸後も内耳への水の浸入を防ぐことは必須であるが、洗髪は日常生活動作の中でも最も耳内に水が浸入しやすい行為でもある。したがって、鼓室形成術後の洗髪方法の改善は看護ケアに大きな意味を持つのである。

IV. 結 論

鼓室形成術後の洗髪時に用いる耳栓の改善を目的に耳栓を工夫する方法を試みた。従来のワセリン耳栓によるべとつきは使用時だけでなく、後始末等にも不快感の残存を認めた。パラフィルムで被包したカラー粘土耳栓では、不快感が改善され、安楽性だけでなく、能率性、安全性にも効果が認められた。以上から鼓室形成術後の洗髪時の耳栓にはカラー粘土をパラフィルムで被包する方法が有効と考えられた。

今回は看護婦に調査したが、普段ワセリンの指導を行っていたり、健康人であるという点で、実際に手術した患者を対象としていない。その点が本報告の限界である。今回の調査をもとに、今後も実際のケアに取り入れていけるようより改善を目指していきたい。

謝辞

本研究をまとめるにあたりご指導下さった山口大学医学部保健学科 飯野英親先生をはじめ1病棟6階スタッフの皆様に深謝致します。

引用文献

- 1) 川島みどり：新訂 生活行動援助の技術（第1版），p.19，看護の科学社，1987.

参考文献

- 1) 磯部文子他：外科的療法を受ける患者の看護，p.56～60，学研，1984.
- 2) 鈴木淳一：鼓室形成術—I型～0型—，p.33，医学書院，1982.
- 3) 中村津奈子他：中耳炎術後（耳後部開放創）の患者の洗髪法の工夫，p.262～265，第22回日本看護学会（成人看護）集録，1991.
- 4) V. ヘンダーソン：看護の基本となるもの，p.14，日本看護協会出版，1995.
- 5) 森山寛：耳鼻咽喉科患者の看護のポイント，p.31～44，メディカ出版，1999.

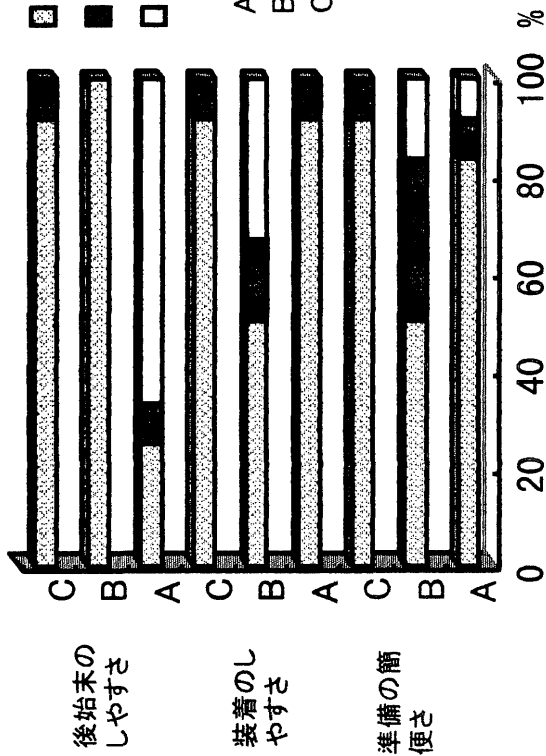


図1. 各耳栓方法別の能率性

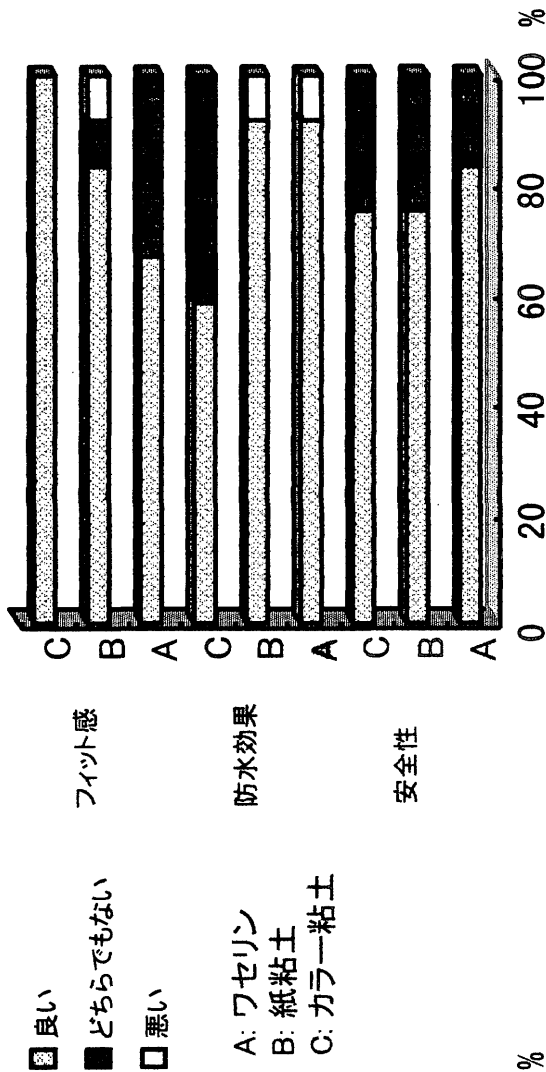


図2. 各耳栓方法別の安全性

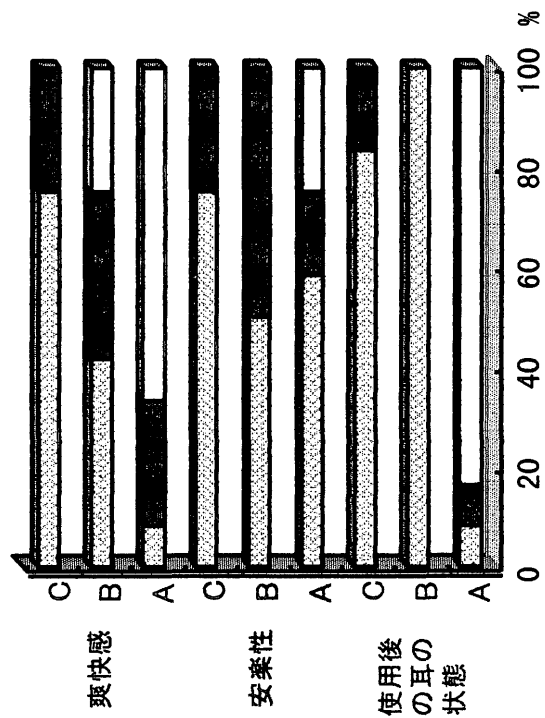


図3. 各耳栓方法別の安楽性

表1. 各耳栓方法別の能率・安全・安楽性

質問内容	ワセリン耳栓(A)		パラフィルム被包紙粘土耳栓(B)		パラフィルム被包カラー粘土耳栓(C)	
	良い	悪い	良い	悪い	良い	悪い
能率性	10(86.6%)	1(8.3%)	6(50.0%)	2(16.6%)	11(91.6%)	0
能率性	11(91.6%)	0	6(50.0%)	4(33.3%)	11(91.6%)	0
能率性	3(25.0%)	8(66.6%)	12(100%)	0	11(91.6%)	0
安全性	10(83.3%)	0	9(75.0%)	0	9(75.0%)	0
安全性	11(91.6%)	1(8.3%)	11(91.6%)	1(8.3%)	7(58.3%)	0
安全性	8(66.6%)	0	10(83.3%)	1(8.3%)	12(100%)	0
安楽性	1(8.3%)	10(83.3%)	12(100%)	0	10(83.3%)	0
安楽性	7(58.3%)	3(25.0%)	6(50.0%)	0	9(75.0%)	0
安楽性	1(8.3%)	8(66.6%)	5(41.6%)	3(25.0%)	9(75.0%)	0
合計	62	27	77	11	89	0

第1段階 (戴室形成術後の洗髪方法改善に関する看護研究のご協力をお願い)

戴室形成術後の洗髪の際に、ワセリンを使用して、耳内に水が入るのを防止して
いますが、患者さんからワセリンのべとつきにたいたいする訴えが聞かれ、現在の方法
に疑問を感じました。今回、現在の方法を再度検討するとともに、現時点で新しく
考案した耳栓とを比較し、よりよいものへと改善できたらと思います。看護研究に取り
上げました。ご協力をお願いします。

(使用物品)

- ・ワセリン、綿球
- ・紙粘土、パラフィルム

(注意事項)

- ・乾いた手と耳で装着して下さい (湿気の多いお風呂での装着は避けて下さい)
- ・2つの方法を方耳ずつ装着して、洗髪は1回だけ行って下さい
- ・寒い場所ではパラフィルムは伸びにくく、また伸ばしすぎると破損しやすいので
気をつけて下さい
- ・洗髪後は耳栓をすぐに取り外して、他の場所には湯をかけないで下さい
- ・時間は5～15分とし、シャワーの温度は37～41度程度で行って下さい
- ・頭を下向き状態でシャワーをかけて下さい

(使用方法)

- 1：洗髪前に方耳に綿球を詰め、その上にワセリンを塗ります。もう方耳には紙粘
土を包んだパラフィルムを耳の形に合わせて詰めます。
- 2：注意事項に気を付けて洗髪し、それぞれの物品を取り出して下さい
- 3：施行後、アンケート用紙に記入して下さい

(アンケート用紙)

以下の1～3までの評価を、質問項目にそれぞれ記入して下さい

(1良い 2どちらでもない 3悪い)

質問	耳栓方法		理由
	ワセリン耳栓	パラフィルム被包 紙粘土耳栓	
(1) 準備の簡便さ			
(2) 装着のしやすさ			
(3) 後始末のしやすさ			
(4) 安全性			
(5) 防水効果			
(6) フィット感			
(7) 使用後の耳の状態			
(8) 安楽性			
(9) 爽快感			

何か気づいたこと、意見等あれば書いて下さい

第2段階（装置が装着後の装着方法改善に関する看護研究のご協力のお願い）

（アンケート用紙）

前回、ワセリンと紙粘土による耳栓を比較していただきましたが、紙粘土が固まったり、手技の統一が図れなかったりと様々な問題があり、改善とまでいられなかったので、前回の不備な点を考慮して再度耳栓を考案したので、調査のご協力をお願いします。

（使用物品）

- ・カラー粘土、パラフィルム

（注意事項）

- ・乾いた手で耳を装着して下さい（湿気の多いお風呂での装着は避けて下さい）
- ・耳に装着して、お髪は1回だけ行って下さい
- ・手技の統一を図るため、粘土をパラフィルムで包むのはこちらで行います
- ・お髪は耳栓をすくに取り外して、他の場所には湯をかけないで下さい
- ・時間は5～15分とし、シャワーの温度は37～41度程度で行って下さい
- ・頭を下向き状態でシャワーをかけて下さい

（使用方法）

- 1：洗髪前に耳にパラフィルムで包んだカラー粘土を詰めます
パラフィルムの先端は取りやすいようねじっているため、先端は耳の中に詰めないようにします
- 2：注意事項に気をつけてお髪し、それぞれの物品を取り出して下さい
- 3：施行後、アンケート用紙に記入して下さい

以下の1～3までの評価を、質問項目にそれぞれ記入して下さい

（1良い 2どちらでもない 3悪い）

質問	耳栓方法		理由
	パラフィルム軟包	カラー粘土耳栓	
(1) 準備の簡便さ			
(2) 装着のしやすさ			
(3) 後始末のしやすさ			
(4) 安全性			
(5) 防水効果			
(6) フィット感			
(7) 使用後の耳の状態			
(8) 安楽性			
(9) 爽快感			

何か気づいたこと、意見等あれば書いて下さい